

試合要領

1 試合方法(個人試合、団体試合共通)

トーナメント方式で行う。3位決定戦は行わない。

試合時間は2分とする。

団体戦の代表戦は、時間無制限によるゴールデンスコア方式(平試合なし)とする。

2 審判基準

(1)個人試合

「国際柔道試合審判規定・国内における少年大会特別規定」、審判監督会議による当大会申し合わせ事項によるが、延長戦は行わない。勝敗決定方法は、勝ちの内容順を「一本」「技有」「有効」「僅差」「判定」とする。「僅差」については、双方の選手間に技による評価(技あり・有効)がない又は同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。

「指導」差がないか、1であれば審判員の判定による「判定」で勝敗を決する。

(2)団体試合

「国際柔道試合審判規定・国内における少年大会特別規定」、審判監督会議による当大会申し合わせ事項によるが、延長戦は行わない。勝敗決定方法は、個々の試合においては勝ちの内容順を「一本」「技有」「有効」「僅差」とし、それに満たない場合は「引き分け」とする。

「僅差」については、双方の選手間に技による評価(技あり・有効)がない、又は同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。

「指導」差がないか、1であれば「引き分け」とする。その結果、団体戦の勝敗は、一本勝ち(総合勝ち・反則負け)、技有勝ち、有効勝ち、僅差勝ちの順に多い方を勝ちとする。

内容も同じ場合には、休憩時間をとらず、代表1名をもって代表決定戦を行う。

その場合は、時間無制限によるゴールデンスコア方式によって勝敗を決する。

(先に「有効」以上の技評価を得た選手が勝ちとなり、また先に「指導」を与えられた選手が負けとなる。平試合は行わない。)

3 参加規定

(1)個人試合

参加者数は、1～5年生の男女の部ごとに各団体2名以内、6年生の男女の部については、無制限とする。ただし、主管団体の参加者数は制限しない。

※該当学年以外の学年の選手を充当することはできない。

(2)団体試合

チーム編成は、高学年の部、低学年の部とも5名で補員は1名とする。

参加チーム数は、高学年の部、低学年の部とも、各団体1チーム以内とする。

ただし、主管団体の参加チーム数は制限しない。

選手の配列は、自由とするが、配列の変更は認めない。なお、補員を出場させた場合は、交代した選手はその後の試合に出場できない。

※該当学年以外の学年の選手を充当することはできない。

4 会場

大会本部席

第2会場
個人戦
男子2・3年 女子6年
団体戦低学年Aパート

第1会場
個人戦
男子1年 男子6年
団体戦高学年Aパート

第4会場
個人戦
女子 1年～5年
団体戦低学年Bパート

第3会場
個人戦
男子4年 男子5年
団体戦高学年Bパート